慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	特集：慈善と救貧の比較史：金澤周作著『チャリティの帝国：もうひとつのイギリス近現代史』をめぐって：序
Sub Title	A comparative history of charity and relief : on The empire of charity by Shusaku Kanazawa : preface
Author	松沢, 裕作(Matsuzawa, Yusaku)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2022
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.115, No.2 (2022. 7) ,p.109 (1)- 110 (2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：慈善と救貧の比較史：金澤周作著『チャリティの帝国：もうひとつのイギリス近現代史』をめぐって
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20220701-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」115 巻 2 号（2022 年 7 月）

特集：慈善と救貧の比較史
——金澤周作著『チャリティの帝国 ―もうひとつのイギリス近現代史』をめぐって

松沢裕作 *

本特集は，慶應義塾経済学会の支援を得て，2021 年 12 月 11 日に開催されたミニ・カンファレンス「慈善と救貧の比較史——金澤周作著『チャリティの帝国』をめぐって」の内容に基づくものであり，当日の報告者 3 名の報告，小浜正子氏のコメント，著者である金澤氏のリプライを収録するものである。

金澤周作著『チャリティの帝国——もうひとつのイギリス近現代史』（岩波新書，2021 年）は，チャリティを切り口に，イギリス近現代史を通観し，イギリスの特性を浮き彫りにした著作である。著者はすでに浩瀚な学術書『チャリティとイギリス近代』を 2008 年に出版しているが，今回，新書という多分野の研究者にとって手に取りやすい形で研究成果がまとめられたことを契機に，この著作を参照軸としながら，他の時代・地域の慈善や救貧のあり方を対置することによって，救貧・慈善の多様なあり方について考察するために，本カンファレンスは企画された。

一般的に言って，歴史上の各社会には，諸個人が生活手段を獲得するに際して，標準的とみなされる（複数の）入手方法（「はたらき」）があり，その対価として獲得される標準的とされる生活がある。一方，標準的とみなされる「はたらき」をおこなわない・おこなえない諸個人はどの社会にも必ず存在する。そうした諸個人は，放置されるのでなければ何らかの扶助の対象となる。

こうした扶助が歴史上広範囲に存在することをどのように考えるべきだろうか。まず，大量の餓死者が恒常的に発生するような社会は安定的に存続できず，社会の構成員は何らかのかたちで扶助をおこなうことで，社会を安定させる必要に迫られる，という背景を考えることができるだろう。一方で，およそ人間と言うものは，目の前で困っている人がいると，放置できないという傾向を有する，という前提を考えることもできる（『チャリティの帝国』では，この側面が「三つの気持ち」と表現されている。松沢論文参照）。

そのいずれの要因を考えるにしても，歴史上の諸社会における扶助のあり方は多様であるのだか

＊ 慶應義塾大学経済学部

ら，社会の安定を目指すという目的にしても，困っている人は放置し難いという感情にしても，それをとりまく特定の状況の一部として存在していることは明らかだ。つまり，慈善・救貧のあり方の比較史的研究は，ある社会がどのように社会の安定を確保しようとしているのか，ある社会において，「あるべき」と考えられる働き方・生き方（それに対応して，どのような者を，そのような理由で救うのか——「気持ち」の現れ方——が描出される）を相互に比較する回路を持つことになる。

本カンファレンスの組織者である松沢は，2020 年度歴史学研究会大会報告「日本近代形成期の集団と個人」[(1)]の準備過程で，金澤周作『チャリティとイギリス近代』[(2)]，夫馬進『中国善会善堂史研究』[(3)]など，日本以外の諸地域の慈善事業にかかわる研究に触れ，諸地域の救貧・慈善のあり方が大きく異なることを知り，当該分野の比較史研究の必要性を痛感した。本カンファレンスに先行する試みとしては，三田史学会の二回のシンポジウム「中世環地中海圏都市の救貧」（2000 年）[(4)]と，「環地中海都市の慈善と救貧：中世から近世へ」（2016 年）[(5)]が挙げられる。この二つのシンポジウムでは，ユダヤ教・イスラム教・キリスト教という三つの宗教の交錯する「環地中海世界」における救貧の比較がおこなわれているが，本カンファレンスでは，『チャリティの帝国』に先行する中近世ヨーロッパ，および『チャリティの帝国』と同時代の日本を対象とした報告，中国史からのコメントという構成で，論点の豊富化を目指した。カンファレンスはオンラインで開催されたが，のべ 91 名の参加者があり，フロアからも，途上国との比較の可能性や，政治思想史の文脈から見た本書の位置づけ，また植民地主義と慈善・救貧の比較史上の論点が提起された。今後の議論のさらなる活性化につながれば幸いである。

［ミニ・カンファレンス概要］

日時：2021 年 12 月 11 日　13：00〜17：00（Zoom を利用したオンライン開催）

論題：「慈善と救貧の比較史——金澤周作著『チャリティの帝国』をめぐって」

報告 1　松沢裕作（慶應義塾大学）　「明治日本から見た『チャリティの帝国』」

報告 2　河原温（放送大学）　「中近世ヨーロッパ都市に見る慈善と救貧のポリティクス——金澤周作『チャリティの帝国』を参照系として」

報告 3　池田真歩（北海学園大学）　「「施行」と「慈善」——明治期東京の事例から」

コメント　小浜正子（日本大学）

リプライ　金澤周作（京都大学）

---

(1)　『歴史学研究』1007，2021 年。

(2)　京都大学学術出版会，2008 年。

(3)　同朋社出版，1997 年。

(4)　長谷部史彦編『中世環地中海都市圏の救貧』（慶應義塾大学出版会，2004 年）。

(5)　『史学』87–3，2018 年。